

「応答関係を大切に」

布団に入りたくない…どうしたのかな？



? こんなかかわりしてしまっていないかな？

- 早く寝かせようとして強めに布団をトントンする。
- 「もう寝なさい」「めをつむって」「おばけがくるよ(怖がるもの)」などと言って、寝かそうとする。
- 寝ずに動いたりしゃべったりしている子の布団を離して敷く。

! こんなふうにかかわって見たら…？

- 布団に入りたくない気持ちを受けとめる
「眠くないんだね」「布団がいやなのね」「あそびたかったのね」「起きたらまたあそぼうね」など共感的な言葉を添えながら対話し、安心感がもてるようにする。
- 気持ちをリラックスさせる
 - ・抱っこをする
 - ・やさしくわらべうたを歌いながら背中をさする
 - ・頭や顔をなでる
 - ・体や足のマッサージをする

大切にしたいこと
かかわり

1歳児の午睡時間は、子どもの成長に必要な時間です。しかし目をつむり、眠っていくことに不安を感じる子どももいます。子どもの寝たくない気持ちや行為に対して、保育者が受けとめ返してくれることが「自分は大切にされている」という安心感につながっていきます。午睡の時にも、一人ひとりの子どもに合わせた応答関係を大切にしていきたいですね。

「オムツ替えは一对一の大切な時間」

オムツ替えをいやがってるよ…どうしてかな？



? こんなかかわりしてしまっていないかな？

- 排泄を同じ時間帯で一斉、または機械的にしていないかな？
- 排泄後、「はい終わり」と済ませていないかな？
- 一人ひとりの排泄の間隔を把握できているかな？

オムツ替えて、濡れたオムツを取り換えて不快感を取り除き、スッキリした心地よさを知る大事な時間。

子ども目線で考えると…

「大好きな先生に替えてもらうのは嬉しいなあ」「先生と一緒にいられて嬉しい」「先生は、ちゃんとこっちをみているかな」

大切にしたいこと
かかわり

- 子どもたち一人ひとりの排泄のリズムに合った誘いかけ、対応をしていますか？
- 「気持ちよかったね」「きれいになってスッキリしたね」などの共感する言葉をかけていますか？
- 一对一のかかわりを大事にしなが、子どもの情緒を安定させ、安心感や信頼感を得られるようにしていますか？

オムツ替えは、子どもの顔を見て優しい言葉をかける大事な時間です。子どもは生理的欲求が満たされることにより、満足感や喜びを得ています。いい気持ちになる瞬間におとながそばにすることで、信頼関係が深まります。

オムツ交換の際に言葉をかけていくことが安心につながり、心地よさを感じられるようになっていきます。保育者は、オムツ交換をしながら、「きれいにしてあげようね」「気持ちよくなったね」と声かけを行い、子どもの気持ちを汲んで共感することが大切です。子どもとコミュニケーションをはかることにより、子どもは、「言葉」や「表現」を獲得していきます。

また、衣類に隠れた部分を意識して観ていくことは、虐待の早期発見にもつながります。オムツ替えの時間を、子どもの様子や生活をさらに知る機会としましょう。

オムツ替えは作業ではなく、子どもと一对一で関係性をもてる貴重な時間ととらえましょう。

「楽しい時間は心の栄養」

同じものを食べている、同じものをおかわりする…なんでかな？

それがすきなんだもん！

食べたことないんだもん

形や柔らかさが食べやすいんだもん

においがいやだ…

みためがいやだなあ

？ こんなかかわり方をしていませんか？

- 同じものだけでなく他のものも食べてほしいという思いから、「他のものもおいしいよ」「もうなくなっちゃったから、これ食べようか」と無理に他のものを食べさせようとする。
- 「家ではなかなか作れないものが多いから、保育園で食べて味を知ってほしい」と食べさせようとする。

子どもの笑顔のために

楽しく食事ができているかな？

大切にしたいことかかわり

- 「おいしいね」と共感しながら一緒に食べる。
- 「これはどんな味かな」と大好きなおとなが食べているのを見て、子どもが自分から食べてみようとする気持ちを育む。

噛んだり、押したり、どうしたのかな…。

周りの子が自分に触れていやだ…

自分のしたいことをじゃまされた！

〇〇ちゃんとおそびたい！

もやもやするよ～

好きなあそびが見つからない

おもちゃを他の子にとられていやだな…

どいてほしい

？ こんなかかわりしてしまっていないかな？

- 大きな声を出して止める。
- 噛まれた(押された)子にだけ、優しく寄り添いかかわる。
- 繰り返し行為をしてしまう子に「また〇〇ちゃん？」と決めつける。
- 噛んだり押したりしそうだと思い込み、先に「噛んだら(押したら)ダメよ!」と言う。

! こんなふうにかかわってみたら…？

- 噛まれた(押された)子に「痛かったね」「いやだったね」と声をかけて気持ちを受けとめる。噛んだ子には「～したかったの？」などと気持ちに寄り添いながらも、噛んではいけないことを伝え、子どもの気持ちを言葉にしていく。
- 大きな声で怒るのではなく、一対一でかかわることで、子どもが自分の気持ちをわかってもらえたと感じられるようにする。
- 「〇〇ちゃんも～されていやだったと思うよ」と、相手の気持ちも知らせていく。
- 使いたいおもちゃや道具があった時、保育者と順番を待ち、それであそべたという経験を重ねていく。

大切にしたいことかかわり

子どもは、育ちのなかで、他の子どもへの関心が高くなってきています。同時に、自己主張も強くなってくるので、他の子とのトラブルも増えてくる時期です。そこで、おとなと一緒にあそびながら、人とのかかわり方を知らせていくことが大切になります。また、保育者が子どもの気持ちを、繰り返し肯定的に言葉にしていくことも大切です。そうすることで、子どもは「自分のことをわかってくれた」という安心感を持ち、相手にも思いがあることに気づいていきます。

噛む、押すなどの行動には理由があると考えます。怒ったり決めつけたりせずに、子どもの気持ちや姿を受けとめましょう。そして見えてきた子どもの思いや行動の背景を、職員間で共有しましょう。

また、保育園(所)で起きた子どもどうしのトラブルを保護者に伝える時には、十分な配慮が必要です。双方の保護者に子どもの今の姿と今後の発達などの見通しを伝え、保護者と一緒に考えていくことが大切です。